

し能はざる所なり。故に本年秋冬の候に開かるべき聯盟會議に於て、帝國代表は聯盟乃至米國の包圍攻撃に陥り一大苦戦に遭難すべきを豫期し、今に於て之に對する一大決心と準備との必要を痛感するに拘はらず、外務當局が樂觀的觀察を逞うして輕々に之を公表するが如きは徒らに大事の前に民心を弛緩し、國民の結束を破る外何等の益なく、吾人は寧ろ鼓を鳴らして其輕卒、不謹慎を責めざるべからざるなり。而して吾人は世間一部に唱へらるゝ所の滿洲に於ける支那の宗主權を認めむとするが如き説は極力之を否認するものなるを以て、聯盟會議に於ては如何なる苦戦難關に遭遇するも、斷乎として、其最初の主張に向つて勇往邁進せざるべからず。之が爲めに國運を賭するも尙ほ且つ辭せざるの一大決意を必要とするを以て、吾人は政府當局を鞭撻し、國民一致協力して今より其準備就中國防上の諸施設に全力を傾注し有事の秋に方り萬遺算なきを期せざるべからざるなり。

上述の如く帝國は今や千古未有の一大國難に直面し若し一步を誤るときは國家の存立を危くするの虞あるを以て、吾人は此際此一大難局を突破するに足る有力にして鞏固なる政府の樹立を痛感するも、若し現内閣に優る後繼内閣成立の確信なくして徒に政權争奪に没頭し、以て政變を招來せむとするが如き非國民的行動は斷じて之を慎まざるべからず。吾人は齋藤内閣に對して固より満足の意を表するものにあらざるも、帝國の死活問題とも稱すべきは國際聯盟の活劇を眼前に控へて政變を惹起じ、民心の動搖を招き國民の結束に弛緩を來すが如き私闘は、此際之を避けざるべからず。故に吾人は齋藤首相に反省を促し、從來の微溫的態度を一變して拔山蓋世の勇を揮ひ、内閣の統制を策し、以て陣容を一新して其重大使命を敢行せむことを切望すると同時に、政黨政治家も

亦猛省して從來の黨派的根性より脱却し、眞に國家的觀念に立脚し、政府を極力援助し曠古の一大國難を打開するに全力を傾注せむことを熱望して已まざるなり。(昭和七年九月十五日)

リットン報告に接して

陸軍大將 田 中 國 重

昨年來帝國が滿洲問題に關し、國際聯盟に於て苦境に陥るや、他力本願主義の我外交官は策の出づる所を知らず、輕卒にも支那調査委員の派遣を提案せり。

當時吾人は必ずや該委員より我に不利不滿なる報告を提出すべく、又將來滿蒙國際管理を胚胎する虞あるを豫見して、當時の陸軍當局に卑見を具申する所ありしが、果せる哉、其報告は大體吾人の豫想の適中せるを遺憾とす。

抑も越人が秦人の肥瘠を視るが如き滿蒙に於ける利害關係稀薄なる歐米人と、滿蒙を幾多將卒の漚げる鮮血の結晶と思惟し、且つ之を帝國の生命線と確信する日本民族との滿蒙觀念に雲泥の差ある以上、滿蒙問題の解決に